

## ポスト民主党政権の政党支持と権威主義・愛国主義

——『国際化と市民の政治参加に関する世論調査』の分析（4）——

首都大学東京 桑名 祐樹

### 1 目的

本報告では、2013年に行った『国際化と市民の政治参加に関する世論調査』と、同様の設計で行った2009年の調査データを比較することによって、政権交代前後の政党支持の規定要因を明らかにする。特に、権威主義と愛国主義の各政党支持に対する影響に焦点を当てる。

2009年調査において、無党派層に比べて愛国主義と権威主義は共通して自民・民主支持層で正の効果を持っていた。民主党のマニフェストや所属議員の政策選好がそれなりに自民党と対照的であるのに対し、支持層の意識は似通っていたのである。そこで、本報告では前回調査の分析をふまえ、権威主義や愛国主義についてより詳細に分析する。

権威主義的態度が長期安定で保守的な自民政権を維持してきたとされるモデルは、SSMの分析などを通じて指摘されてきた。ただし、民主党は元革新政党支持者を含む比較的若い政党であると考えられ、また2009年まで野党であった。したがって、長期的に民主党を支持する層は権威主義的な傾向は低いと予想される。2013年の調査時点では、民主党は再び野党へと転落し、2009年時点で自民支持から離反した人や、無党派からの転向者は、安定多数の与党という「大樹」ではなくなった民主党への支持を変えている、とも予測できる。そこで2013年時点の民主党支持層は権威主義的ではなくなっているという推論が立てられる。また、外国人参政権を推進しようとした民主党を保守的な項目群で構成された愛国主義的な意識を持つ人々が支持し続けているとは考えにくく、こちらも権威主義と同様に、2013年では効果が変わっていると想定される。

### 2 方法

2009年『日本の国際化と市民の政治参加に関する世論調査』と、2013年調査の2時点のデータで共通した質問文で尋ねた権威主義関連項目群や愛国主義関連項目群を主成分得点化し、独立変数とする。さらに、先行研究で指摘される変数（年齢・性別・学歴・職業・農村率に加え、意識項目）を統制した上で多項ロジスティック回帰分析を用いた分析を行った。

### 3 結果

分析の結果、2009年と2013年の間で、自民党における変化は少ないが、民主党への支持へは大きな変化があった。まず、権威主義が民主党支持に効果をもたなくなっている点である。また、愛国主義も有意ではなくなっている。また、第三極として現れた日本維新の会への支持に関しては、権威主義の効果はないものの、愛国主義の効果は確認された。

### 4 結論

本分析の結果、権威主義と愛国主義は、2度の政権交代を挟んで各政党支持に与える効果が異なることが分かった。第一に、権威主義的態度の効果は、権威主義的な態度の効果は、政権交代を実現しそう、あるいは実現した政党への支持につながってと考えられる。また、2009年時点での愛国主義的な民主党支持者は2013年自民党と日本維新の会へと支持を移したと考えられる。

[謝辞] 本研究は、科学研究費補助金基盤研究（B）（25285146）の助成を受けたものである。